

## 平成 29 年度 学位記授与式 学長式辞

先月の大雪の痕跡が、いまだキャンパス内のここかしこにも残ってはおりますが、まわりの山々の雪解けも一段とすすみ、暖かい春の日差しに恵まれる時節となつてまいりました。そのような本日、

福井県知事西川一誠様の代理として総務部企画幹 杉本達雄 様、越前市長 奈良俊幸様、本学顧問・元福井大学長 児嶋眞平先生、をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を仰ぐ中、平成二十九年度、仁愛大学ならびに仁愛大学大学院の学位記授与式をここに挙行し、卒業生の皆さんを新たに社会に送り出す日を迎えることができますことは、本学教職員一同の大きな喜びであります。

人間学部心理学科 68 名、コミュニケーション学科 44 名、人間生活学部健康栄養学科 74 名、子ども教育学科 50 名、計 236 名の、学士の学位を授与された皆さん、及び人間学研究科臨床心理学専攻を修了し、修士の学位を授与された十名の皆さん、卒業並びに修了まことにおめでとうございます。

また、本日御列席のご家族の皆様方にも、ご子息、ご息女が新たな旅立ちの日を迎えられましたこと、お慶びを申しあげます。あわせて在学中に本学に寄せていただきましたご支援、ご協力に対しまして、心より感謝を申し上げるものです。

皆さんの卒業後の進路は、一般企業へ就職する方、免許・資格を活かした栄養関係や教育・保育関係、心理カウンセラーなどの専門職として活動する方、さらには大学院に進学される方など、いろいろではありますが、在学中に蓄えられた知識や体験をベースとして、一人ひとりが、それぞれの場で活躍されていくことに、大きな期待を寄せるものです。

ただ、改めて申し上げるまでもなく、皆さんの今後の活躍の場となる現代社会は、解決困難な課題も多く抱え、また急激な変化にも晒されており、いわば荒海ともいえます。人口減少や人口流出が進む地方の活性化課題は特に身近なものでありましょう。また AI 技術などの急速な進展は、従来の産業構造や職業の大転換を招くとも予測されております。さらに地域経済や産業技術の問題に限らず、文化的にも「社会の多様化」といったようなことも、来たるべき時代を表すキーワードとして挙げられてもいます。これは、人種、国籍、性別、障害の有無などの「違い」を乗り越え、その「違い」を尊重し、融和する社会の実現を目指すことですが、意識面でもかなりの転換が必要となり、企業組織などでも大きな課題となつてきているようです。

この様にいろんな変化が予想される社会を、皆さんが中心となつて担っていくこととなります。変化に対応していくためにも、今までの教育で身に付けたことにとどまらず、好奇心、向学心を持ち続けて、日々に新たな取り組みにチャレンジしてください。

皆さんの母校となるこの仁愛大学は、元来、地域を支えていく人材の育成を目指して、越前市をはじめ、地元の期待とご支援をいただいて創立された大学であります。

さらに、その人材養成を「仁愛」という語のもと、いのちのつながりと相互敬愛の精神を

基盤とし、その上での専門性を活かして社会に貢献すべく、特に「人間」あるいは「人間の関係性」ということに焦点を合わせた教育・研究に取り組んできた大学でもあります。

特に人間学部においては、人の心の問題や良好な人間関係の構築について、人間生活学部においては、健康や子育てなど生活を直接的に支援するための専門知識や技術を培っていただきました。

スペインには「山は山を必要としないが、人は人を必要とする」という諺があるそうです。「人が生きていくには他の人が必要で、互いに支えあい助け合うことで、初めて豊かに生きていくことができる。」というのが、人間にとって共通の認識であり、また本学の建学の精神の願うところといえましょう。

本学で学ばれた知識や技術、そして本学の理念とする「仁愛」のころでもって、お互いがそれぞれ必要とされる人として、「美しい世を拓く」人材として活躍され、豊かな人生となりますことへの期待を申し述べて、学位記の授与にあたって、皆さんに贈る言葉といたします。

なお最後に、私事にわたり恐縮ではありますが、私も卒業生の皆さんとともに、この三月末をもって本学を離れることとなります。開学以来、副学長、この四年間は学長として本学の運営に携わってまいりましたが、その間、皆様方からいただいたご支援に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

改めて、卒業生の皆さんのご活躍と、本学の益々の発展を祈念申し上げて、式辞といたします。

ご卒業まことにおめでとうございます。

平成 30 年 3 月 15 日  
仁愛大学 学長 禿 正宣